

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援あるく		
○保護者評価実施期間	令和8年2月6日		令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和8年2月6日		令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々のこどもの状況や保護者の意向を踏まえた支援計画の作成と、計画に基づく支援の実施ができてきていること。	日々の行動観察、保護者からの聞き取り、職員間の情報共有を踏まえ、こどもの状況把握に努めたうえで児童発達支援計画を作成している。また、本人支援・家族支援・移行支援・地域連携の視点を意識しながら、支援内容を具体化するよう努めている。	アセスメントの視点や記録方法をより統一し、客観性と継続性を高めることで、計画の精度向上につなげていく。
2	保護者との丁寧な説明・相談対応と、日常的な情報共有ができてきていること。	契約時や計画作成時に、運営規程、支援プログラム、利用者負担、支援内容等について丁寧な説明を行っている。また、送迎時や連絡手段を通して、日々の様子や課題を保護者と共有し、相談や申入れに対して迅速に対応できるよう努めている。保護者評価においても、説明、相談対応、満足度は高い評価を得ている。	相談内容や意向確認の記録をより明確にし、支援計画や事業所運営への反映が見える形になるよう改善していく。

3	関係機関との連携、安全管理、非常時対応に継続して取り組んでいること。	相談支援事業所、医療、保育、教育等の関係機関と必要に応じて連携し、移行支援や情報共有を行っている。また、各種マニュアルやBCPを整備し、避難訓練、事故防止、ヒヤリハット共有、虐待防止研修等を通して安全管理に努めている。保護者評価でも、安全面や安心感について高い評価が得られている。	家族への周知方法や訓練内容をさらに分かりやすくし、実際の場面をより想定した運用に高めていく。
---	------------------------------------	--	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	業務改善におけるPDCAサイクルへの全職員の参画や、支援前後の打合せ・振り返り体制にばらつきがあること。	日々の支援や送迎、記録業務等により時間的余裕が少なく、全職員が十分に目標設定や振り返りに関わる仕組みがまだ十分に整っていない。また、共有が個人差やその日の状況に左右されやすい面がある。	短時間でも確実に実施できる朝夕の共有方法や記録様式を整理し、全職員が継続的に参画できる仕組みを整えていく。
2	標準化されたツール等を用いた客観的なアセスメントの活用が十分ではないこと。	日々の観察や保護者からの聞き取りは行っているが、標準化された評価方法の活用や、職員間で共通した視点による整理が十分に定着していないため、把握や記録に差が生じやすい。	アセスメントツールの検討、記録視点の統一、研修や事例検討を通じて、より客観性のある支援評価につなげていく。
3	地域との交流機会、家族支援プログラム、保護者同士の交流機会が十分ではないこと。	個別支援や日々の運営を優先する中で、地域交流や家族支援を計画的に実施する体制づくりが十分でなかった。また、地域の受け皿や連携先との調整にも課題がある。保護者評価でも、地域交流や家族支援、交流機会については改善の余地が示されている。	地域との接点づくりを段階的に進めるとともに、保護者ニーズを把握しながら、家族支援や交流機会を無理のない形で計画的に設けていく。